闘いなくして安全なし

2021.08.03
No．３１６

〔発　行〕動労千葉を支援する会
千葉市中央区要町２－８ＤＣ会館
http://dourousien28.kane-tsugu.com/renrakuban/
dc-info@deluxe.ocn.ne.jp

ジョブローテーション、乗務員勤務制度改悪、ダイ改合理化、ローカル線切り捨て反対！　定年延長と65歳まで働ける職場を！

ＪＲ西日本・北海道の業務融合は縮小・消滅

ＪＲ千葉支社は「営業系統と運輸系統の業務を融合・連携させる」ことを掲げた組織横断プロジェクトの発足を発表しました。鴨川、木更津、銚子の３エリアで両系統の社員と地区指導センターの支援者で構成され、メンバーは所属箇所と支社総務部、地区指導センターの兼務とされています。

「業務融合・職名全廃」提案を既成事実のように進めようなど、絶対に許せません。

安全崩壊で再び専門性重視へ

業務融合化はＪＲ西日本や北海道でも実施されてきました。とくにローカル線地域において、西日本では「（地域）鉄道部」、北海道では「運輸営業所」が設立されました。その中では、駅、車両、保線、建築、機械、電気等の職名がすべて廃止・統一され、業務を融合化して徹底的に要員を削減したのです。

例えば、〈車掌として約４時間乗務した後に入区作業、構内入換業務で出区８本・入区６本の誘導、３時間以上の改札業務を行って終業〉という作業ダイヤが組まれていました。

こういった合理化は、「安全性がそこなわれていない範囲」で行うとされていました。しかし、両社とも大事故を起こし、技術継承や安全上の深刻な問題を招きました。

北海道の運輸営業所は消滅、西日本の鉄道部も統廃合で３分の１まで減っています。再び専門性を重視せざるを得なくなり、西日本は一度廃止した駅、技術職、車掌、運転士等それぞれの「主任」職名も復活させました。

「融合化」提案に反対の声を

ＪＲ東日本はより極端な「融合化」を進めようとしています。しかし、鉄道を動かす様々な専門業務を軽視し、利益だけを優先して「新たな価値創造」を叫ぶ施策は、鉄道の安全を破壊します。認めるわけにはいきません。

会社の攻撃には大きな矛盾があります。阻止する力は職場に闘う労働組合を取り戻すことです。動労千葉と共に反対の声をあげよう。

ＪＲ千葉支社「組織横断ＰＪ」３エリアで発足

キックオフミーティングに出席した深澤社長（中央）、中川支社長（右端）と各エリアのプロジェクトリーダー

ＪＲ東日本千葉支社の鴨川、木更津、銚子の３エリアでこのほど、社員の働き方の向上を目指す組織横断プロジェクト「働きがい向上プロジェクト」が発足し、同支社研修センター（千葉市中央区）で３エリア合同のキックオフミーティングが開かれた。

同プロジェクトは、営業系統と運輸系統間の業務を融合・連携させることで相互にさまざまな業務に従事できる土壌をつくり、生産性向上や業務改革、働き方の向上を目指す取り組み。

各エリアで両系統の社員と地区指導センターの支援者の計６人で構成し、このうち助役がリーダーを務める。業務範囲の幅を広げるため、各メンバーはそれぞれの所属箇所に加え、支社総務部と地区指導センターの兼務となる。

キックオフミーティングには、深澤祐二社長、中川晴美執行役員・千葉支社長ら関係者約30人が出席した。

中川支社長は「系統や組織を超えたフレキシブ

2021/7/16
交通新聞